

案内用図記号(ピクトグラム)のデザイン原則と図記号の理解度試験に関する JIS 制定

～統一感のある理解しやすい図記号の作成を目指して～

2025 年 1 月 20 日

図記号は、言葉によらずに、目で見ただけで情報を伝える記号であり、その中でも特に、案内用図記号(ピクトグラム)は、公共施設や地図、標識等で用いられる記号であることから、誰からも理解されるデザインであることが重要です。

しかしこれまで、国内では、案内用図記号自体を規定している JIS はあったものの、それらの案内用図記号をデザインする際のルールや、図記号の理解度を測定する方法が整備されていませんでした。

そこで今回、案内用図記号をデザインするための統一基準(デザイン原則)と、図記号の理解度試験方法を、それぞれ新たに JIS として制定しました。

これらの JIS の制定により、一定の基準の下で案内用図記号のデザイン作成がなされ、作成した図記号の理解度を統一的に測ることが可能となります。加えて、これらの JIS を用いることで、新たな案内用図記号を、迅速に既存の JIS に追加できるようになり、統一感のある理解しやすい案内用図記号の更なる普及に寄与することが期待されます。

1. JIS 制定の背景及び目的

図記号は、言葉によらずに、目で見ただけで情報を伝えるものであり、その中でも特に、案内用図記号(ピクトグラム)は、公共施設や地図、標識等で用いられる記号であることから、誰からも理解されるデザインであることが重要です。

これまで、国内では、案内用図記号自体を規定している JIS (Z8210)はあったものの、それらの案内用図記号をデザインする際のルールや、図記号の理解度を測定する方法が整備されていませんでした。このため、図記号の作成者は、従来、案内用図記号のデザイン原則を規定する国際規格や図記号の理解度試験方法を規定する国際規格、過去の事例等を参考にしながら、案内用図記号のデザインを行い、作成した図記号の理解度の確認を行ってきました。

そこで今回、上記の国際規格を基礎に、日本の事情に合わせた修正を加え、案内用図記号をデザインするための統一基準(デザイン原則)を規定した JIS と、図記号の理解度試験方法を規定した JIS を新たに制定しました。

2. JIS 制定の主なポイント

今回制定した JIS の主なポイントは次のとおりです。

① Z8211-1 案内用図記号のデザイン原則―第 1 部：共通事項

デザイン原則は 3 部構成になっていますが、第 1 部では、案内用図記号を作成する際の作成手順、分類・名称等の設定及びデザイン等の共通事項について規定しています。

このうちデザインについては、分類別にデザインテンプレートを用意し、使用することとしています。案内用図記号の分類は、施設と安全の 2 つに大別されますが、それぞれのデザインテンプレートの詳細については、続く第 2 部(施設)及び第 3 部(安全)で規定しています(図 1―「安全」分類のデザインテンプレートの例)。

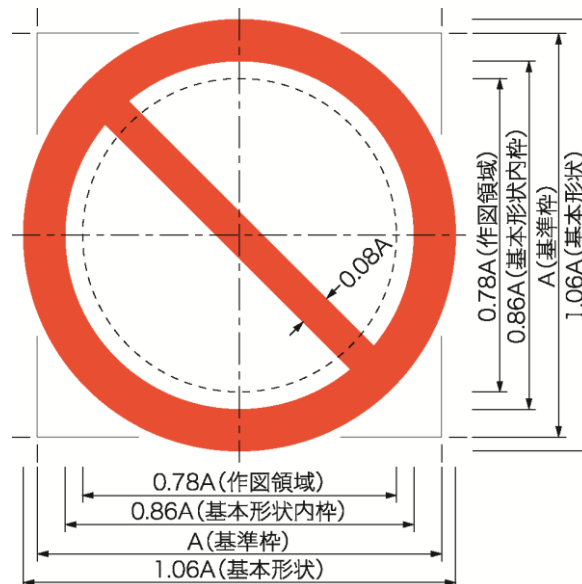


図1－「安全」分類のデザインテンプレートの例（禁止図記号（Z8211-3 で規定））

② Z8211-2 案内用図記号のデザイン原則－第2部：施設などの案内用図記号に用いる基本形状、色及び使い方

デザイン原則の第2部では、施設などに分類された案内用図記号に用いる基本形状、色及び使い方等について、表1のとおり規定しています。

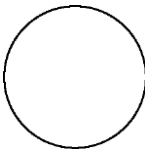
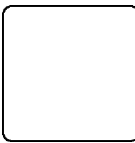
区分	基本形状		色	使い方
公共・一般施設 交通施設 商業施設 観光・文化・スポーツ 施設		正円形とする。	白地に黒を標準とする。	図記号要素が文字及び記号の場合に使用する。正円形の基本形状の中に、図記号要素を黒で配置する。
		正方形の角を丸くする。	白地に黒を標準とする。	図記号要素が文字及び記号以外の場合に使用する。正方形の基本形状の中に、図記号要素を黒で配置する。

表1－施設などの案内用図記号の基本形状、色及び使い方

③ Z8211-3 案内用図記号のデザイン原則－第3部：安全などの案内用図記号に用いる基本形状、色及び使い方

デザイン原則の第3部では、安全などに分類された案内用図記号に用いる基本形状、色及び使い方等について、表2のとおり規定しています。

区分	基本形状	色	使い方
----	------	---	-----

安全	防火・危険		正方形の角を丸くする。	正方形の内部を赤で塗りつぶす。	正方形の基本形状の中に、図記号要素を白系統で配置する。
	誘導		正方形とする。	正方形の内部を緑で塗りつぶす、又は白地に緑の図記号要素とする。	緑地の場合、正方形の基本形状の中に、図記号要素を白系統で配置する。白地の場合、図記号要素は、緑で配置する。
禁止			正円形の枠の中に45度の斜線を左上から右下に引く。	正円形及び内部の斜線部分は赤とし、その他は白とする。	正円形の基本形状の中に、具体的な禁止事項を意味する図記号要素を黒で配置する。基本形状は図記号要素にかぶせる。
注意			正三角形の角を丸くする。	正三角形の枠部分は黒とし、内部は黄で塗りつぶす。	正三角形の基本形状の中に、具体的な注意事項を表す図記号要素を黒で配置する。
指示			正円形とする。	正円形の内部を青で塗りつぶす。	青の正円形の基本形状の中に、具体的な指示事項を表す図記号要素を白系統で配置する。
災害種別一般			正方形の枠とする。	正方形の太枠部分は黒とし、内部は白とする。	正方形の基本形状の中に、具体的な災害を表す図記号要素を黒で配置する。
堤防案内			正方形の枠とする。	正方形の太枠部分は青とし、内部は白とする。	青い正方形の基本形状の中に、具体的な案内事項を表す図記号要素を青で配置する。

表2ー安全などの案内用図記号の基本形状、色及び使い方

④ Z8212 図記号の理解度試験方法

図記号の理解度試験方法では、図記号の候補となるデザインが、どの程度の割合の人々に正しく理解されるかを調査する試験方法を規定しています。

試験方法は主に以下の2種類があり、調査対象国や試験回答者、試験手順、回答結果の集計方法等を規定しています。

- 自由記述式理解度試験：図記号が何を意味すると思うか、試験回答者が自由に回答を記述する方法。
- 四者択一式理解度試験：図記号が何を意味すると思うか、試験回答者が4種類の選択肢から一つを選択する方法。

また、これらの試験結果から候補となるデザインの理解度を分類し、図記号を評価することも規定しています。

3. 期待される効果

今回制定される規格により、統一基準の下で案内用図記号のデザイン作成を行うことが可能になり、かつ、作成した図記号の理解度を統一された試験方法で測ることが可能となります。

これにより、今後は、一定の基準を満たした図記号が提案されるようになることから、案内用図記号を規定している既存の JIS（Z8210）に、迅速に新たな案内用図記号を追加することが可能となり、統一感のある理解しやすい案内用図記号の更なる普及に寄与することが期待されます。

※日本産業標準調査会（JISC）の HP（<https://www.jisc.go.jp/>）から、「Z8211」、「Z8212」で JIS 検索すると本文を閲覧できます。

【担当】

経済産業省 イノベーション・環境局 国際標準課

bzl-s-kijun-ISO@meti.go.jp 03-3501-1511(内線 3423)

(課長)西川 (担当)湯川、小川(晶)、鈴木